

福島の子ども 36 万人 甲状腺検査 県民全員に健康手帳

東京電力福島第一原発の事故による福島県民への放射線の影響を追う健康調査について、福島県の委員会は24日、今後の詳細な内容を決めた。震災発生時に18歳以下だった約36万人を対象に、甲状腺がん検査を生涯にわたり実施する。これだけ大規模で長期に甲状腺の影響をみる検査は例がない。全県民200万人を対象に調査記録を保存する手帳「健康管理ファイル(仮称)」も作る。

子どもは大人より放射線の影響を受けやすく、特に甲状腺がんが子どもで増えることがチェルノブイリ原発事故の調査でわかっている。放射線の影響とみられる甲状腺がんの発生は事故後4～5年からだった。

福島の甲状腺検査では、2011年10月～2014年3月までに超音波検査で現時点でのがんの有無を調べる。それ以降は全員に2年に1度、エコー検査を受けてもらう。20歳以上は5年に1度にするが、生涯、無料で検診をする。

(7月25日付朝日新聞)

卵子提供へ 日本人女性 100 人超え 海渡る

日本人の若い女性が日本人の不妊夫婦に卵子を提供するため、韓国やタイに渡っていることがわかった。この1年間で100人以上が、60～70万円の謝礼で卵子を提供していた。日本国内では第三者による卵子提供は認められていない。一方、韓国やタイの両政府も規制強化に乗り出した。

日本人の卵子提供者を韓国やタイに送るあっせん業者は、東京やバンコクに少なくとも4業者ある。朝日新聞が3業者と、採卵で協力している現地の医療機関に取材したところ、2010～2011年に100人以上が提供していた。

提供者はインターネットで募集している。約2週間の現地滞在中、排卵を誘発する注射を打つ以外は自由に行動できる。提供者への報酬は、銀行口座に振り込まれる例が多い。

(7月27日付朝日新聞)

った医療チームを効率よく避難所に配置するため、厚生労働省は27日、全国に「災害医療コーディネーター」(仮称)を整備する方針を決めた。少なくとも、全国に約500か所ある保健所単位で1人配置することを求める。

東日本大震災では、医師や看護師らでつくる医療チームが続々と被災地に入ったが、現地に調整役がいなかったために、1つの避難所で複数の医療チームが鉢合わせになったり、医療チームがいない避難所が出たりして混乱が生じた。

厚生労働省によると、コーディネーターは、災害直後に重傷者の救急治療にあたる災害派遣医療チーム(DMAT)の活動を引き継ぎ、中長期的に避難所で救護活動をしたり病院を支援したりする医療チームの調整を担う。管轄する地域にある各避難所に、どんな患者が多いのかなどの情報を集め、応援に入った医療チームに支援先を指示する。(7月28日付朝日新聞)

薬の使用法サイトで紹介 東京大学大学院 医薬品情報学講座

東京大学大学院の医薬品情報学講座が、薬の用語説明や、薬を飲み間違えた事例などを紹介する無料の会員制ウェブサイト「みんく

災害時、医療隊を効率よく配置 コーディネート役整備へ

災害時に全国から被災地に集ま

す」(<http://www.ikuyaku-ut.jp/minkusu/>)を始めた。澤田康文教授は「患者さん自身が身を守る知識を身につけてほしい。使い方を誤った体験を寄せてもらえば、薬の改良につながる」と話す。

サイトは、食べ物や飲み物と薬の相性、ジェネリック医薬品について、お薬手帳の活用方法などを説明している。

(7月29日付毎日新聞)

● 葉酸の取りすぎに 妊婦は注意 胎児に悪影響の可能性も ●

妊婦に勧められているビタミンの1つ葉酸の摂取について、時期と量を適切にするよう研究者らが呼びかけている。葉酸をサプリメントから取る人は多いが、過剰に取ると胎児に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。食事以外に、1日1mgを超えないよう注意し、医師や管理栄養士にも相談したい。

厚生労働省は葉酸について、妊娠が予定される女性は妊娠の1か月以上前から妊娠3か月までの間、通常の食事から摂取する以外に、1日400 μ g(1 μ g100万分の1g)摂取するよう推奨している。

独立行政法人国立健康・栄養研究所が2010年1～11月に行なった調査(妊婦1097人が回答)では、

815人が何らかのサプリメントを利用し、うち約8割が利用中。サプリメントの成分は葉酸が765人(複数回答)で最多だった。回答者の9割は妊娠4か月以降であることから、妊娠4か月以降も葉酸サプリメントを利用する妊婦が多いと見られるという。

摂取量にも注意が必要となる。厚生労働省は、通常の食事以外に、シリアルなどの加工食品やサプリメントで取る葉酸の1日の上限量を1 μ g(1万 μ g)と定めている。また通知で、関係者にこの点を情報提供するよう求めている。

同研究所によると、葉酸を取りすぎた場合、自身が発熱やじんましんなどを起こしたり、生まれた子どもがぜんそくになったりするリスクが報告されている。

国民生活センターは2011年1～4月、葉酸を摂取できるとうたったサプリメント26銘柄について、葉酸含有量や表示を調べた。含有量の表示はおおむね適正だったが、上限量について具体的な記載をした銘柄はなかった。センターは5月、事業者に対し表示の改善を要望、一部事業者が応じた。

同研究所は、パンフレットやホームページ(<http://hfnet.nih.gov/usr/kiso/pamphlet/pregnant.pdf>)で、妊娠中のサプリメントや葉酸の摂取について解説している。

(8月18日付読売新聞)

● 出産時出血死の妊産婦 10人は助かった可能性 ●

2010年1年間に全国で出産時の大量出血で死亡した妊産婦は16人おり、うち10人は、輸血などの処置が適切だったならば救命できた可能性が高いことが、厚生労働省研究班の調査でわかった。

研究班は、体内での出血の進行の見落としや、輸血製剤の不備などで、治療が手遅れになったと分析している。

また研究班は、日本産婦人科医学会の協力で、全国約1万5000人の産婦人科医からカルテなどの提供を受け、死因や診療内容の妥当性を分析した。

16人の年齢は26～42歳で、1.7～1.4Lの出血があった。このうち、兵庫や東京、埼玉など9都県の10人が、救命できた可能性が高いと判断された。

年間数千件の出産を扱う大規模な産婦人科病院のケースでは、39歳の母親が子宮破裂で出血。血圧が異常低下して、1時間後に輸血が開始されたが、輸血製剤が不足し、止血のためのガーゼが子宮に過剰に詰め込まれた。各委員からは「輸血体制が不備だった」「ガーゼで傷が悪化したのでは」などと問題点が指摘された。

(8月21日付読売新聞)